

2019年7月 キューバ情勢

【概況】

1 内政

- (1) 人民権力全国議会第9立法期第3回通常会期の開催
- (2) 国家評議会による恩赦の決定
- (3) モンカダ兵営等襲撃66周年記念式典の開催
- (4) オルテガ名誉枢機卿の逝去

2 外交

- (1) ロウレンソ・アンゴラ大統領の来訪
- (2) 米国によるキューバ石油輸出入公社への制裁対象指定
- (3) ティン・ベトナム国家副主席の来訪
- (4) マルミエルカ外国貿易・外国投資大臣の米国訪問
- (5) マダムドゥ・ガーナ副大統領の来訪
- (6) バルデス・メサ国家評議会第一副議長のニカラグア訪問
- (7) タンガラ・ガンビア外務大臣の来訪
- (8) ロドリゲス外務大臣のベネズエラ訪問
- (9) 天野国際原子力機関（IAEA）事務局長逝去
- (10) 米国人俳優グローバー氏の来訪
- (11) 米国外交官の健康被害事案に係る声明発表
- (12) カブリサス閣僚評議会副議長のロシア訪問
- (13) ラブロフ・ロシア外務大臣の来訪
- (14) 米国によるキューバ制裁リストの更新及び政府関係者に対する査証制限措置
- (15) ディアスカネル国家評議会議長のベネズエラ訪問
- (16) ポンペオ米務長官インタビュー

3 要人往来

- (1) 来訪
- (2) 往訪

【本文】

1 内政

- (1) 人民権力全国議会第9立法期第3回通常会期の開催
13日、人民権力全国議会第9立法期第3回通常会期が開催された。なお、同会期に先

立ち、8日から10日にかけて議会常設委員会が開催され、11日には委員会全体会合が開催されたほか、12日には共産党中央委員会第10回総会が開催された。

冒頭、議会常設委員会及び委員会全体会合での討論内容が確認された後、オメロ・アコスタ国家評議会書記が選挙法について説明を行い、議論が行われた上で満場一致で可決され、発効した。続いて、ホセ・トレド憲法・法務委員会委員長が国家象徴法について説明を行い、議論が行われた上で満場一致で可決され、発効した。次に、イリス・キニョネス食糧産業大臣が漁業法について説明を行い、議論が行われた上で満場一致で可決された。

その後、4月10日に公布された憲法の規定に則り、全国選挙審議会の構成員として議長、副議長、書記及び18名の委員の選出が行われた。続いて、アレハンドロ・ヒル経済企画大臣が、2019年第一四半期の経済計画執行報告書を発表し、2018年の経済成長率が1.2%から2.2%上方修正された。次に、メイシ・ボラーニョス財務価格大臣が、2018年予算執行報告書を発表し、2018年は支出が計画より4%減り、収入が計画より1%増えたことによって、財政赤字が計画より小さかったことが明らかにされた。

最後に、ミゲル・ディアスカネル国家評議会兼閣僚評議会議長が閉会演説を行い、同会期は終了した。

(2) 国家評議会による恩赦の決定

19日、国家評議会は、新憲法に規定された犯罪者の社会復帰への対応及び家族による要請を受け、2,604名の囚人に恩赦を与えることを決定した。恩赦にあたっては、模範囚であることや犯した罪の種類（殺人犯や再犯者は対象外）などが考慮された。

(3) モンカダ兵営等襲撃66周年記念式典の開催

26日、モンカダ兵営等襲撃66周年記念式典がグランマ県バヤモ市で開催された。同式典は、ディアスカネル議長のほか、ラウル・カストロ共産党第一書記、ホセ・マチャード同第二書記、ラミロ・バルデス革命司令官（国家評議会副議長）、エステバン・ラソ人民権力全国議会議長等が出席して行われ、フェデリコ・エルナンデス共産党中央委員会委員兼グランマ県第一書記の演説の後、ディアスカネル議長が演説して終了した。

(4) オルテガ名誉枢機卿の逝去

26日、ハイメ・オルテガ名誉枢機卿が逝去した。オルテガ名誉枢機卿は1981年から2016年までハバナ大司教を務め、革命政府と教会の関係改善に尽力したほか、キューバと米国の外交関係再開にも貢献したとされる。

葬儀には、サルバドル・バルデス・メサ国家評議会兼閣僚評議会第一副議長、エステバン・ラソ人民権力全国議会議長、ロベルト・モラレス・オヘダ国家評議会兼閣僚評議会副議長が参列した。

2 外交

(1) ロウレンソ・アンゴラ大統領の来訪

6月30日から7月1日にかけて、ジョアン・ロウレンソ・アンゴラ大統領がキューバを公式訪問した。

1日、ロウレンソ大統領は「アンゴラ、アフリカそして世界とのキューバの連帯」と題した講演をハバナ大学で行った。同大統領は、キューバは米国の経済制裁にもかかわらず教育・医療・科学研究の分野で国際的にも高いレベルに到達しており、アンゴラおよびアフリカ地域で献身的な支援を行っていることを強調した。講演終了後、同大統領はコロン墓地において、解放運動のためにアンゴラで命を落としたキューバ人兵士に敬意を表した。

また、同日、ディアスカネル国家評議会議長はロウレンソ大統領と会談し、両首脳は歴史的な友好関係を強調するとともに、特に医療・教育・建設分野における協力関係の進展について確認した。同会談には、アンゴラ側から、フェデリコ・マヌエル・ドス・サントス・エ・シルバ・カルドソ大統領府大臣、マヌエル・ドミンゴス・アウグスト外務大臣、ホセ・セサル・アウグスト駐キューバ大使、サルビアノ・デ・ヘスス・セケリア国防大臣、アウグスト・アルチェル・デ・ソウサ・マンゲイラ財務大臣、マリア・ド・ロサリオ・ブラガンカ・サンボ高等教育・科学・技術・革新大臣が、キューバ側から、リカルド・カブリサス閣僚評議会議長、ブルーノ・ロドリゲス外務大臣、レオポルド・シントラ革命軍事大臣、ロドリゴ・マルミエルカ外国貿易・外国投資大臣、ホセ・サボリド高等教育大臣、メイシ・ボラーニョス財務価格大臣が、それぞれ同席した。

さらに、同日、革命宮殿において、ラウル・カストロ共産党第一書記はロウレンソ大統領に「ホセ・マルティ」勲章を授与した。一方、ロウレンソ大統領は、「アゴスチーノ・ネット」勲章をラウル・カストロ第一書記、ディアスカネル議長、シントラ革命軍事大臣、ラモン・エスピノサ革命軍事次官、ディアス・アルグエジェス司令官（1975年12月1日にアンゴラで死去）に授与した。

(2) 米国によるキューバ石油輸出入公社への制裁対象指定

3日、米財務省外国資産管理室（OFAC）が、マドゥーロ体制支援のためベネズエラ石油の輸入に関与した Cubametales 社を新たに制裁対象に追加する旨発表したのに対し、ディアスカネル国家評議会議長及びロドリゲス外務大臣は、それぞれ自身のツイッターに同決定を拒絶する趣旨のメッセージを投稿した。

(3) ティン・ベトナム国家副主席の来訪

7日から10日にかけて、ダン・ティ・ゴック・ティン・ベトナム国家副主席はキューバを訪問した。

8日、バルデス・メサ国家評議会第一副議長はティン副主席と会談し、良好な二国間関係を確認するとともに、二国間合意を推進することで一致した。

9日、ティン副主席はコメ生産に関するベトナムによる協力プロジェクト・サイトを視察したほか、ラウル・カストロ第一書記、ディアスカネル国家評議会議長及びロドリゲス外務大臣と会談した。

10日、ティン副主席は一大観光地であるバラデロを視察した。

(4) マルミエルカ外国貿易・外国投資大臣の米国訪問

16日、マルミエルカ外国貿易・外国投資大臣は、国連持続可能な開発に関するハイレベル政治フォーラム（HLPF）に出席するため、ニューヨークを訪問した。

マルミエルカ大臣は、アントニオ・グテーレス国連事務総長、アミナ・モハメド同副事務総長、マリア・エスピノサ第73回国連総会議長と会談したほか、持続可能な発展に関するラテンアメリカ・カリブ諸国フォーラムメンバー会合の議長を務めた。

(5) マダムドゥ・ガーナ副大統領の来訪

17日から19日にかけて、マハムドゥ・バウミア・ガーナ副大統領はキューバを訪問した。本年はキューバ・ガーナ外交関係樹立60周年にあたる。また、キューバによるガーナへの医療協力は1983年から開始され、20名ほどのキューバ人医師がガーナで活動するとともに、458名のガーナ人学生がキューバの医学部で学んできた。

18日、マリア・チャップマン国家評議会兼閣僚評議会副議長はマハムドゥ副大統領と会談し、両者は良好な状況にある二国間関係について意見交換するとともに、双方の共通関心分野において同関係を引き続き強化する相互の意志を確認した。同会談には、ガーナ側からクウェク・アジマン＝メヌ保健大臣が、キューバ側からマルシア・コバス保健次官が、それぞれ同席した。

19日、ディアスカネル国家評議会議長はマハムドゥ副大統領の表敬を受け、両者は両国を結ぶ歴史的友愛関係について話し合うとともに、政治、連帯、協力関係を推進する意志を確認した。同表敬には、ガーナ側からアジマン＝メヌ保健大臣が、キューバ側からマルセリーノ・メディーナ外務大臣代行が、それぞれ同席した。

同日、マハムドゥ副大統領は、ハバナ医科大学卒業式に出席した。卒業生667名のうち、223名がガーナ人学生であった。同卒業式には、モラレス国家評議会副議長及びホセ・ポルタル保健大臣も出席した。

(6) バルデス・メサ国家評議会第一副議長のニカラグア訪問

18日から19日にかけて、バルデス・メサ国家評議会兼閣僚評議会第一副議長は、サンディニスタ革命40周年記念式典に参列するため、ニカラグアを訪問した。なお、ニカラグアとキューバは1979年7月27日に外交関係を再開した。

19日、サンディニスタ革命40周年記念式典に参列したバルデス・メサ第一副議長は、キューバ国民による連帯を繰り返すとともに、ラウル・カストロ第一書記及びディアスカ

ネル国家評議会議長からの祝意を伝達した。

バルデス・メサ第一副議長のニカラグア訪問には、ロドリゲス外務大臣が同行した。

(7) タンガラ・ガンビア外務大臣の来訪

19日から22日にかけて、ママドゥ・タンガラ・ガンビア外務・国際協力・在外ガンビア人大臣はキューバを訪問した。なお、キューバとガンビアは、1979年5月19日に外交関係を樹立した。

22日、ロドリゲス外務大臣はタンガラ外務大臣と会談し、両外相は二国間関係が良好な状態であることで一致するとともに、外交関係樹立40周年の機会に政治、連帯及び協力関係を推進していく意志を確認した。

また、同日、ラソ人民権力全国議会議長はタンガラ大臣と会談し、両者は良好な関係にある二国間及び議会間関係について対話するとともに、国民及び政府間の結びつきを引き続き強固にしていく意志を表明した。また、ラソ議長は、両国の立法府間の関係強化に資するものとして、3月に行われたガンビア議会内のガンビア・キューバ友好議員連盟の設立に謝意を表明した。

23日、モラレス国家評議会副議長はタンガラ外務大臣と会談し、両者は良好な二国間関係について対話するとともに、キューバとガンビアの歴史的な友好関係を引き続き強化する用意があることを再確認した。

(8) ロドリゲス外務大臣のベネズエラ訪問

21日、ロドリゲス外務大臣は非同盟運動（NAM）閣僚級会合に出席するため、ベネズエラを訪問し、同会合において演説を行った。

また、ロドリゲス外務大臣はベネズエラ滞在中、他の米州ポリバル同盟（ALBA）外務大臣たちとともにニコラス・マドゥーロ大統領を表敬したほか、デルシー・ロドリゲス副大統領及びホルヘ・アレアサ外務大臣とそれぞれ会談した。

(9) 天野国際原子力機関（IAEA）事務局長逝去

22日付報道によれば、キューバの核エネルギー・先端技術機関（AENTA）は、天野之弥 IAEA 事務局長逝去に対する弔意を表明し、同事務局長は科学関連機関を視察するためキューバを3回訪問し、キューバに対する技術協力プログラムの推進に尽力した。

また、同日、在京キューバ大使館フェイスブックも、天野事務局長逝去に対する弔意表明を掲載した。

(10) 米国人俳優グローバー氏の来訪

22日、ディアスカネル議長は、第20回ラテンアメリカ医学学校（ELAM）卒業式に招待され出席するためキューバを訪問中の米国俳優・映画監督のダニー・グローバー氏

と会談した。両者は歴史的・文化的結びつきを基礎とした、キューバと米国の芸術家交流を推進する重要性について対話した。ディアスカネル議長は、二国間関係の後退による同分野における否定的な影響への懸念を表明するとともに、米国においてその改善が支持されている幅広い分野を進展させる意志を繰り返した。

(11) 米国外交官の健康被害事案に係る声明発表

23日、ジョハナ・タブラダ外務省米国総局次長は、米国外交官の健康被害事案に関し、ハバナにいる外交官に対して如何なる攻撃も行われた証拠は存在せず、米国政府に対し、キューバの国全体、経済及び国民に対する不公平な攻撃的政策を推進するための言い訳として本件を利用することを止めるよう要請する旨の声明を発表した。また、同声明の発表に先立ち、ミッチェル・バルデス・ソサ神経科学センター長が、同日、米国医師会雑誌（JAMA）に掲載された本件に関するペンシルバニア大学による新たな研究報告に反論する声明を発表した。

(12) カブリサス閣僚評議会副議長のロシア訪問

23日、リカルド・カブリサス閣僚評議会副議長はロシアを訪問し、セルゲイ・ショイグ国防大臣と会談した。同会談で、両者は地域の安定と平和に向けたキューバとロシアの協力について意見交換した。

カブリサス副議長のロシア訪問は、2019年に入って1月及び6月に続いて3回目。

(13) ラブロフ・ロシア外務大臣の来訪

23日、セルゲイ・ラブロフ・ロシア外務大臣はキューバに到着した。同外務大臣はキューバ訪問に先立ち、RT（ロシア通信社）のインタビューを受け、キューバで行われている新憲法公布及び経済改革は「極めて重要だ」と述べるとともに、米国による経済封鎖及びヘルムズ・バートン法第三章の適用を「完全に受け入れられない態度だ」との考えを表明した。

24日、ロドリゲス外務大臣はラブロフ外務大臣と会談し、両外相は最良の状態にある二国間関係を強調するとともに、そのさらなる発展に向けた取り組みへの相互の関心を表明した。ロドリゲス外務大臣は、「2030年に向けた経済社会開発計画」で優先分野とされている運輸、エネルギー、産業及びバイオテクノロジー分野などへのロシアの参加を評価した。一方、ラブロフ外務大臣は、キューバ経済の戦略的分野の開発に向けたロシアの約束を再確認するとともに、ヘルムズ・バートン法第三章を始めとする米国による対キューバ経済・貿易・金融封鎖への拒絶を強調した。

また、ラブロフ外務大臣は、ラウル・カストロ第一書記とともに、人民権力全国議会のあるカピトリオにある共和国像の除幕式に出席した。カピトリオ修復はロシア・キューバ共同プロジェクトによるものである。その後、ラブロフ外務大臣は、ラウル・カストロ第

一書記を表敬し、両者は両国の国民及び政府を繋ぐ歴史的な友好関係を強調した。

同日、ディアスカネル議長はラブロフ外務大臣の表敬を受け、両者は両国国民及び政府の歴史的な友好関係を基礎とする最良の二国間関係に相互に満足の意を表するとともに、その関係の継続的な強化に取り組む意志を有することで一致した。

(14) 米国によるキューバ制裁リストの更新及び政府関係者に対する査証制限措置

26日、米務省はキューバ制裁リストに新たに4つの企業を追加したことを発表した。また、同日、米務省は、海外における医療ミッション・プログラムに関わるキューバ政府関係者等に対する米国への査証制限措置を発表した。

(15) ディアスカネル国家評議会議長のベネズエラ訪問

28日、ディアスカネル議長は第25回サンパウロ・フォーラム閉会式に出席するため、ベネズエラを訪問した。同議長にはロドリゲス外務大臣が同行した。

また、ディアスカネル議長は、ニコラス・マドゥーロ大統領とも会談した。

(16) ポンペオ米務長官インタビュー

31日、スペイン発のインターネット報道機関であるディアリオ・デ・クーバは、マイク・ポンペオ米務長官へのインタビュー記事を掲載した。インタビューの中で、ポンペオ米務長官は政府はキューバ国民の最も基本的な自由を拒絶してきたと述べた上で、キューバ国民に対して自由を要求し続けるよう励ましたいと話した。また、ベネズエラ情勢に関し、キューバがその治安部隊をベネズエラから撤退させるのであれば、米国は全ての選択肢を考慮する用意があると明らかにし、キューバ政府が態度を変えることが重要との見方を示した。

3 要人往来

(1) 来訪

ロウレンソ・アンゴラ大統領

ティン・ベトナム国家副主席

マダムドゥ・ガーナ副大統領

タンガラ・ガンビア外務大臣

米国人俳優グローバー氏

ラブロフ・ロシア外務大臣

(2) 往訪

マルミエルカ外国貿易・外国投資大臣の米国訪問

(国連持続可能な開発に関するハイレベル政治フォーラム出席)

バルデス・メサ国家評議会第一副議長及びロドリゲス外務大臣のニカラグア訪問

(サンディニスタ革命40周年記念式典参列)

ロドリゲス外務大臣のベネズエラ訪問(非同盟運動(NAM)閣僚級会合出席)

カブリサス閣僚評議会副議長のロシア訪問

ディアスカネル議長及びロドリゲス外務大臣のベネズエラ訪問

(第25回サンパウロ・フォーラム閉会式出席)